

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成26年12月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

女岳^{めだけ}では、2009年から拡大している地熱域が引き続きみられます。
地震活動は低調で、地殻変動及び噴気活動にも変化はみられませんが、地熱活動が続いていますので今後の火山活動の推移に注意が必要です。
平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図3-①）

東北地方整備局が仙岩峠に設置している監視カメラによる観測では、女岳からの噴気の高さは噴出域から30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図3-②、③）

29日05時40分に女岳山頂の南東約2km、深さ約9kmを震源とするマグニチュード¹⁾3.1の地震が発生し、岩手県矢巾町と秋田県仙北市で震度1を観測しました。28日から30日にかけて、この地震の震源付近では体に感じない程度の微小な地震の増加がみられました。これ以外の期間、火山性地震は少ない状況で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図4、図5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) マグニチュードは地震の規模を示します。資料中の値は暫定値及び速報値が含まれますので、後日変更することがあります。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成27年1月分）は平成27年2月9日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳からの噴気の状態 (12月9日08時25分頃)

- ・仙岩峠 (女岳山頂の南約5km) に設置されている監視カメラ (東北地方整備局) による映像です。
- ・実線赤丸で囲んだ部分が、女岳からの白色噴気で高さは30mです。
- ・破線青丸で囲んだ部分は雲です。

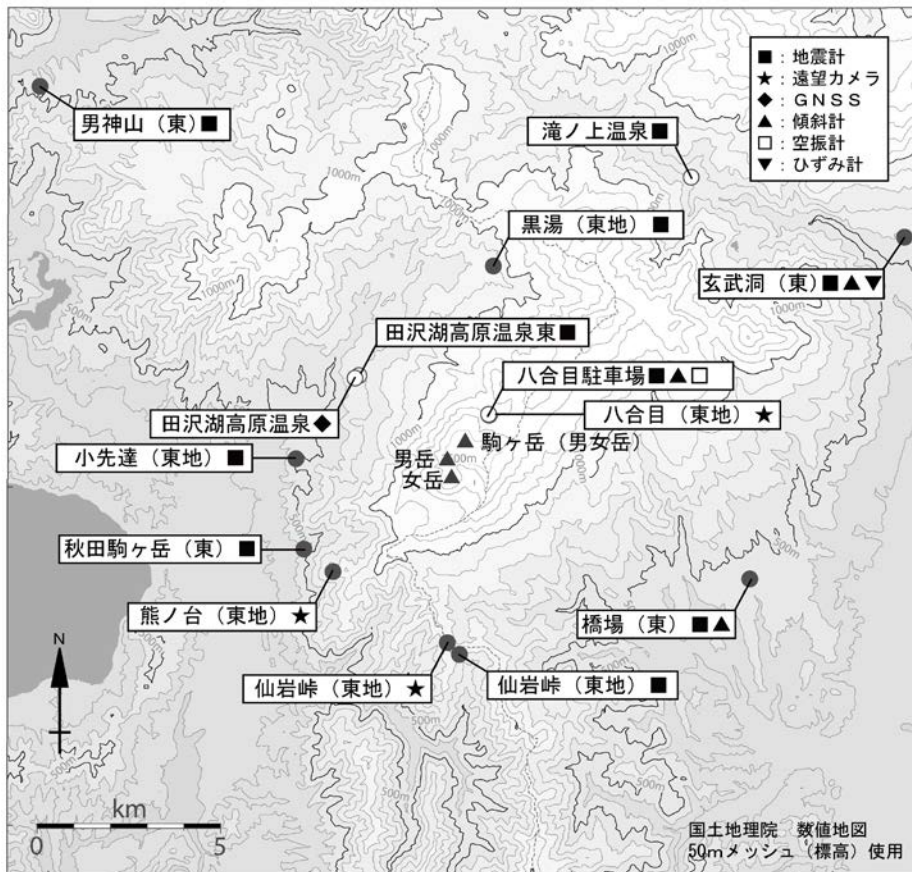


図2 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (東) : 東北大学 (東地) : 東北地方整備局

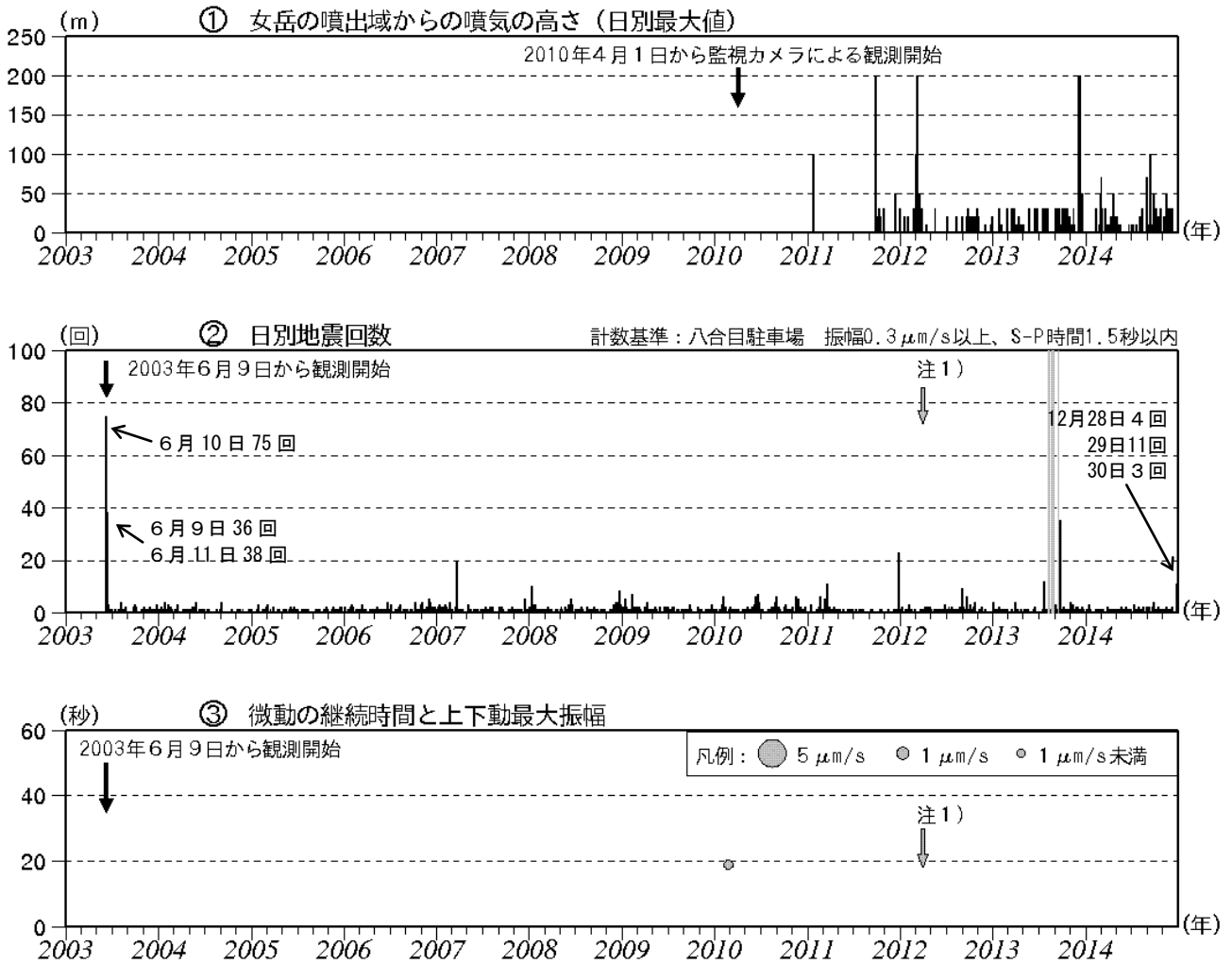


図3 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2014年12月）

- ・①熊ノ台（女岳山頂の南西約5km）及び仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による観測です。
- ・②③基準観測点の変更は次のとおりです（角カッコ内は地震回数の計数基準）。
観測開始 2003年6月9日～東北大学秋田駒ヶ岳観測点 [振幅 $0.5\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内]
注1) 2012年4月1日～八合目駐車場 [振幅 $0.3\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内]
- ・②の灰色部分は欠測を表しています。

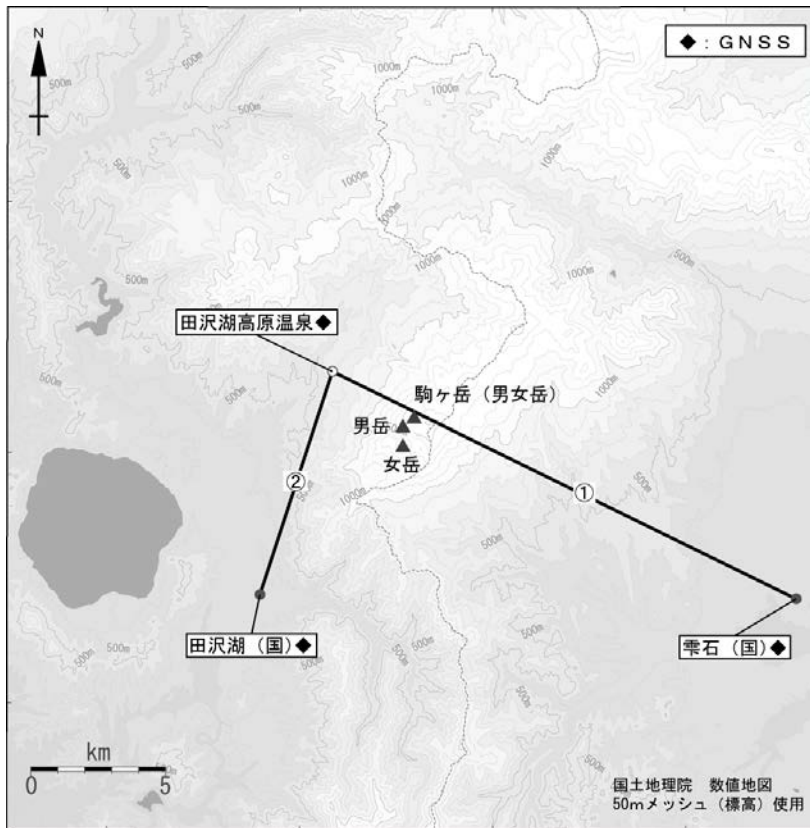


図4 秋田駒ヶ岳 GNSS²⁾ 観測点配置図

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

(国) : 国土地理院

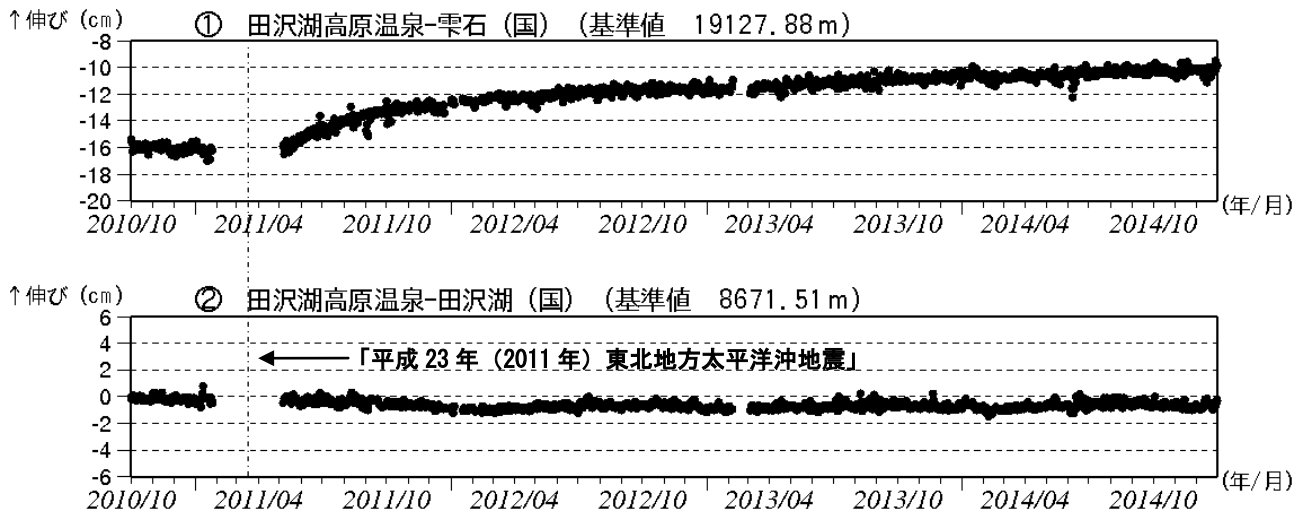


図5 秋田駒ヶ岳 GNSS 基線長変化図 (2010 年 10 月～2014 年 12 月)

- ・①の基線では、「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。また、その後の変動は「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
 - ・①～②は図 4 の GNSS 基線①～②に対応しています。
 - ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- (国) : 国土地理院